

大分県在住外国人意識調査の 結果について 【概要版】

令和7年11月28日

【目次】

- 1. 調査方法
- 2. 回答者の属性
- 3. 調査結果
 - ①大分県での居住意向、生活の満足度 P10～
 - ②生活上の困りごと、相談先、地域との交流 P14～
 - ③情報収集の方法、日本語レベルと学習、防災 P21～

1. 調査方法



外国人意識調査について

P2

調査地域： 大分県全域

調査対象： 県内に1年以上居住歴のある満20歳以上の外国人3,000人
(住民基本台帳から無作為抽出)

調査期間： 令和7年8月

調査方法： 郵送による調査票の回収 及び オンラインによる回答

調査項目： 生活の満足度と困りごとについて、
困ったときの相談先について、地域との交流について、
日本語について、情報収集・移動手段について
防災・暮らしについて、子育て・教育について

回答数： 1,026人(回収率 34.2%)

2. 回答者の属性

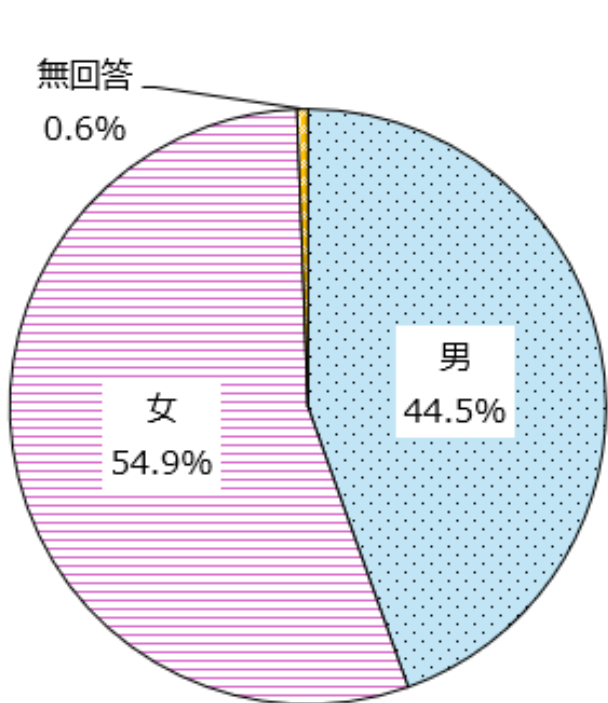


回答者属性①(性別・年齢)

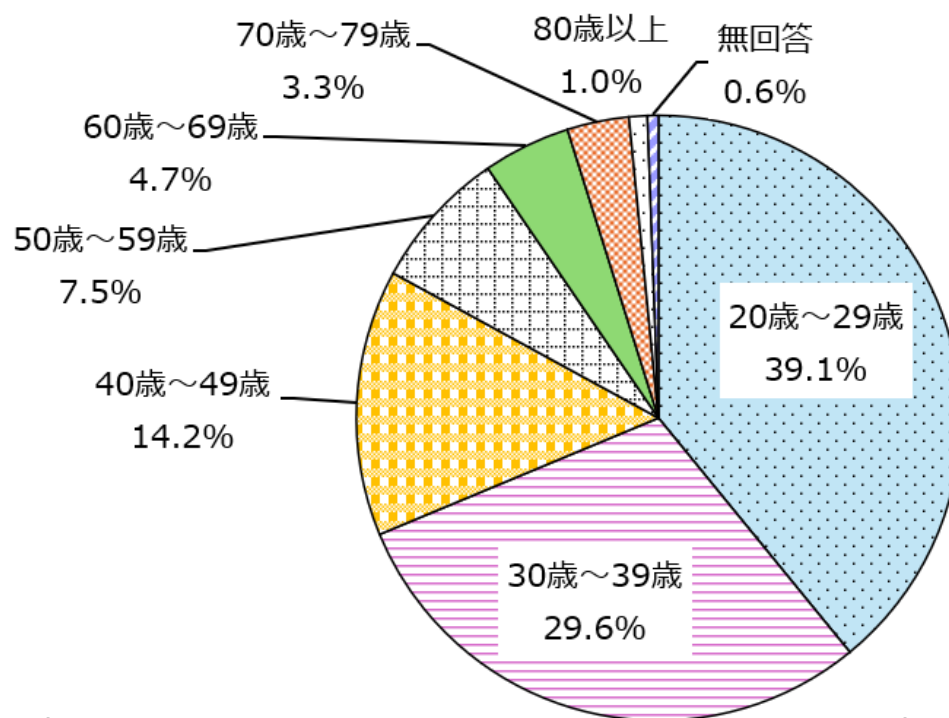
P4

■性別の内訳は男性が44.5%、女性が54.9%。

■年齢別では、20代が39.1%と最も多く、30代が29.6%と、20～39歳でおよそ7割を占める。



(n = 1,026)



(n = 1,026)

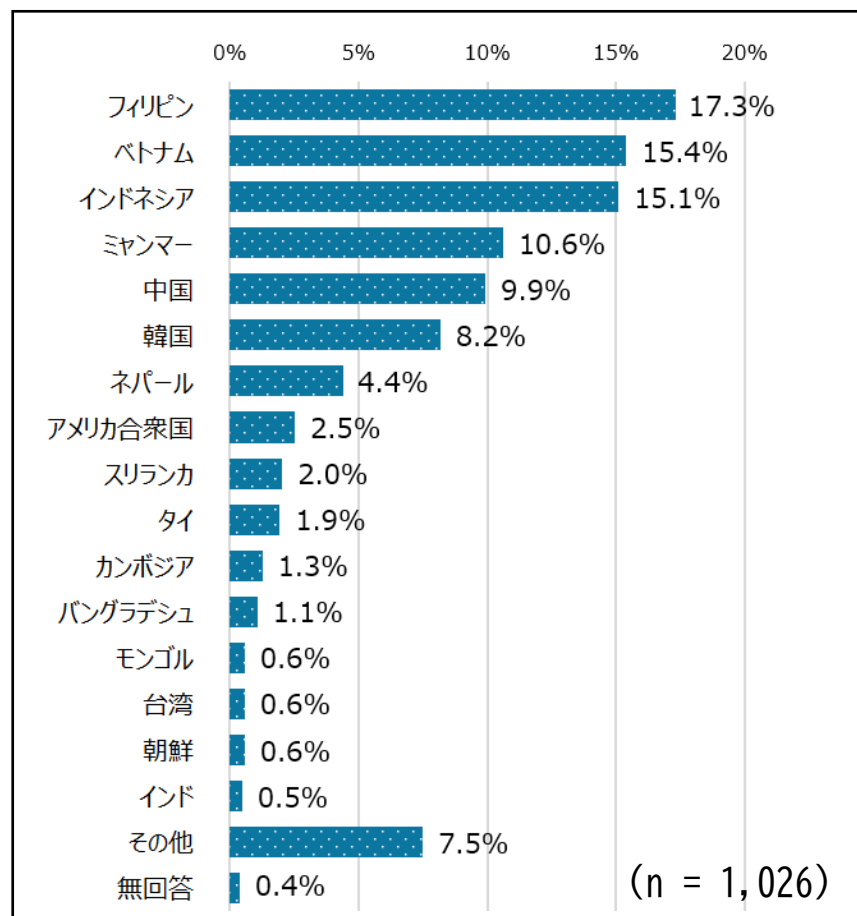
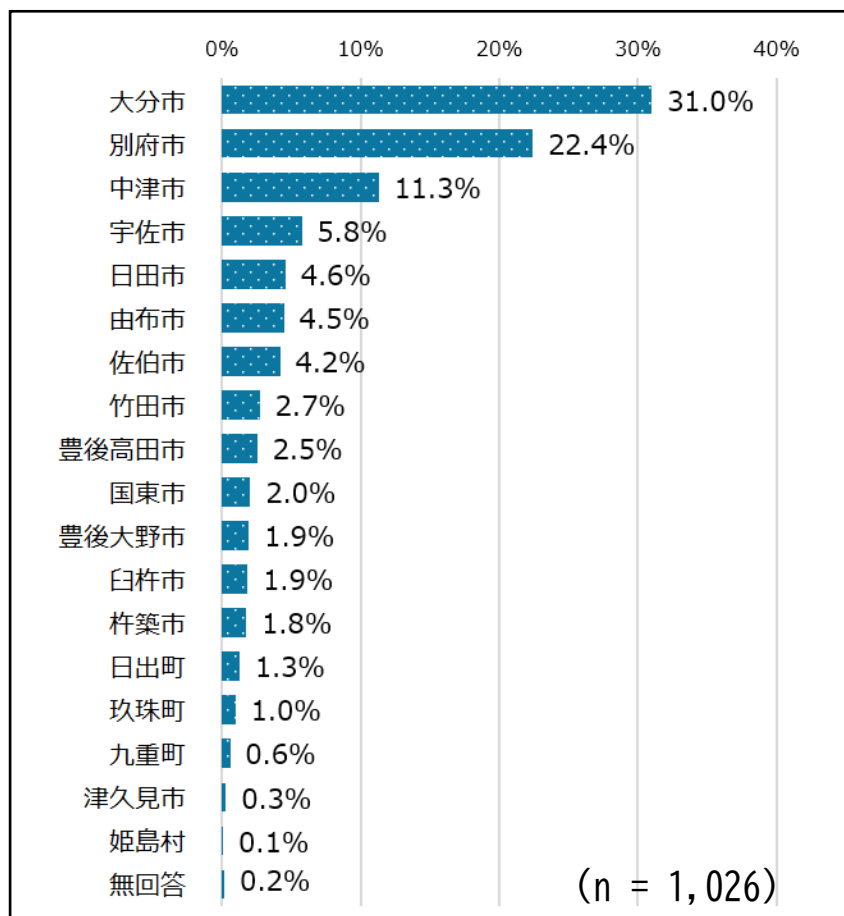


回答者属性②(居住地・出身国)

P5

■居住地は大分市(31.0%)が最も多く、次いで別府市(22.4%)、中津市(11.3%)の順に多い。

■出身国はフィリピン(17.3%)が最も多く、次いでベトナム(15.4%)、インドネシア(15.1%)ミャンマーの順に多い。

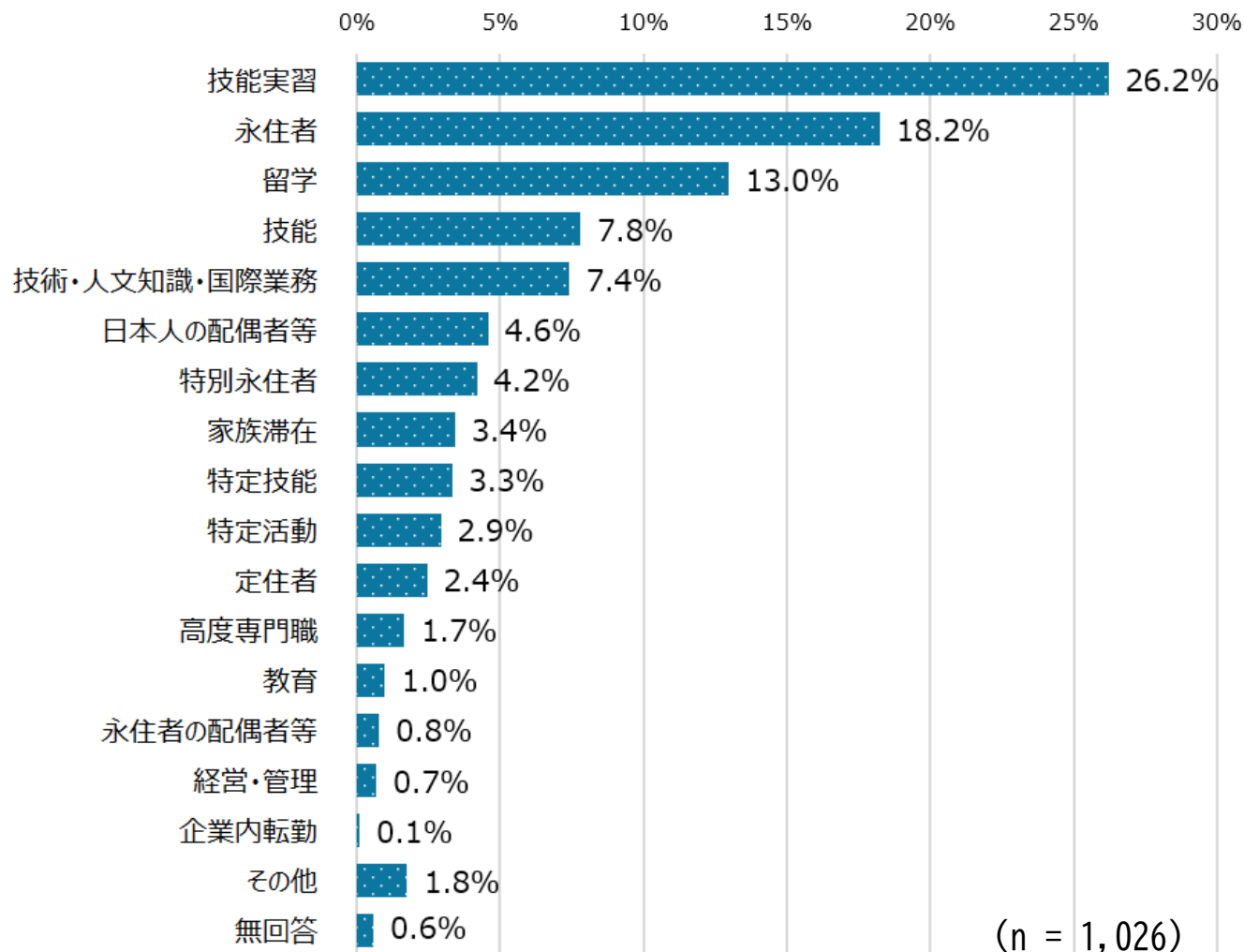




回答者属性③(在留資格)

P6

■在留資格は、技能実習(26.2%)が最も多く、次いで永住者(18.2%)、留学(13.0%)、技能(7.8%)、技術・人文知識・国際業務(7.4%)の順に多い。



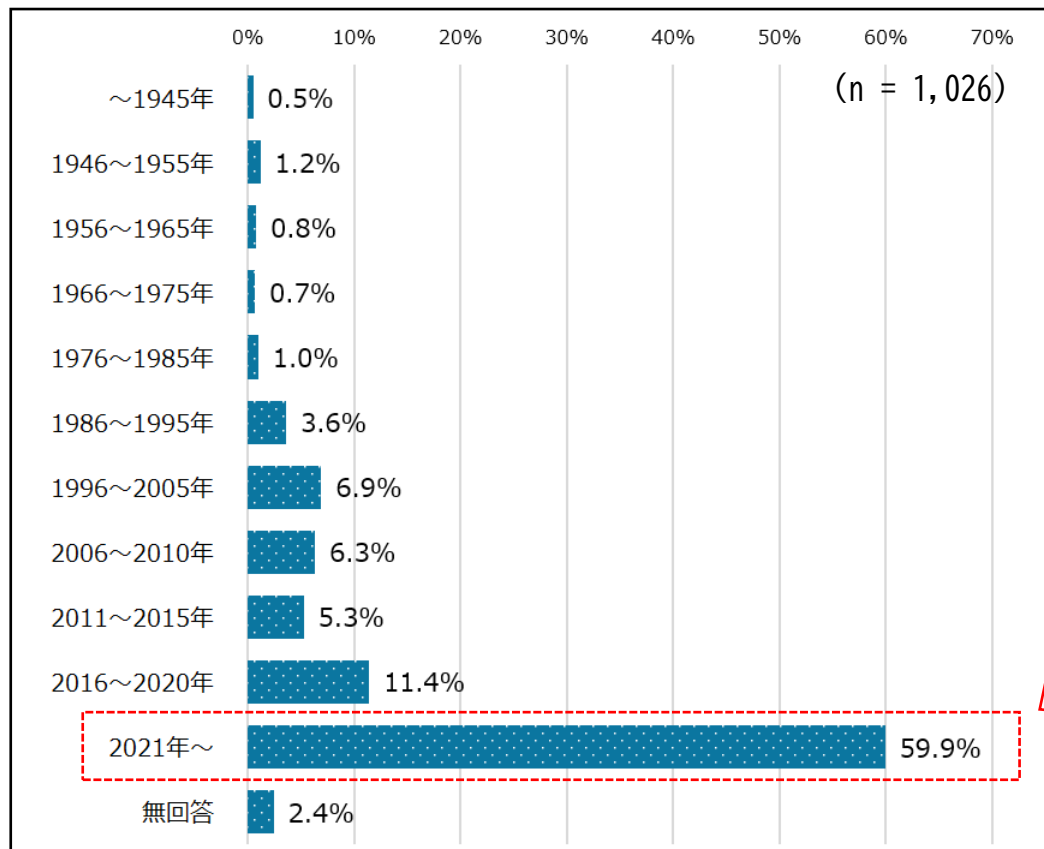


回答者属性④(大分県の在住歴)

P7

- 大分県の在住歴は、「2021年～(59.9%)」が最も多く、全体のおよそ6割を占めている。
- 「2021年～」と回答した人の内訳は、国籍ではベトナム、インドネシア、ミャンマーの3か国でおよそ6割を占め、在留資格では『技能実習』『留学』でおよそ7割を占める。

<いつから大分県に住んでいるか>



(n = 615)

<国籍別(上位5カ国)>

	人数(人)	割合(%)
ベトナム	136	22.1
インドネシア	135	22.0
ミャンマー	99	16.1
フィリピン	59	9.6
ネパール	32	5.2
5か国計	461	75.0

<在留資格(上位5つ)>

	人数(人)	割合(%)
技能実習	245	46.8
留学	122	23.3
技能	43	8.2
技人国	29	5.5
家族滞在	18	3.4
5か国計	457	87.2

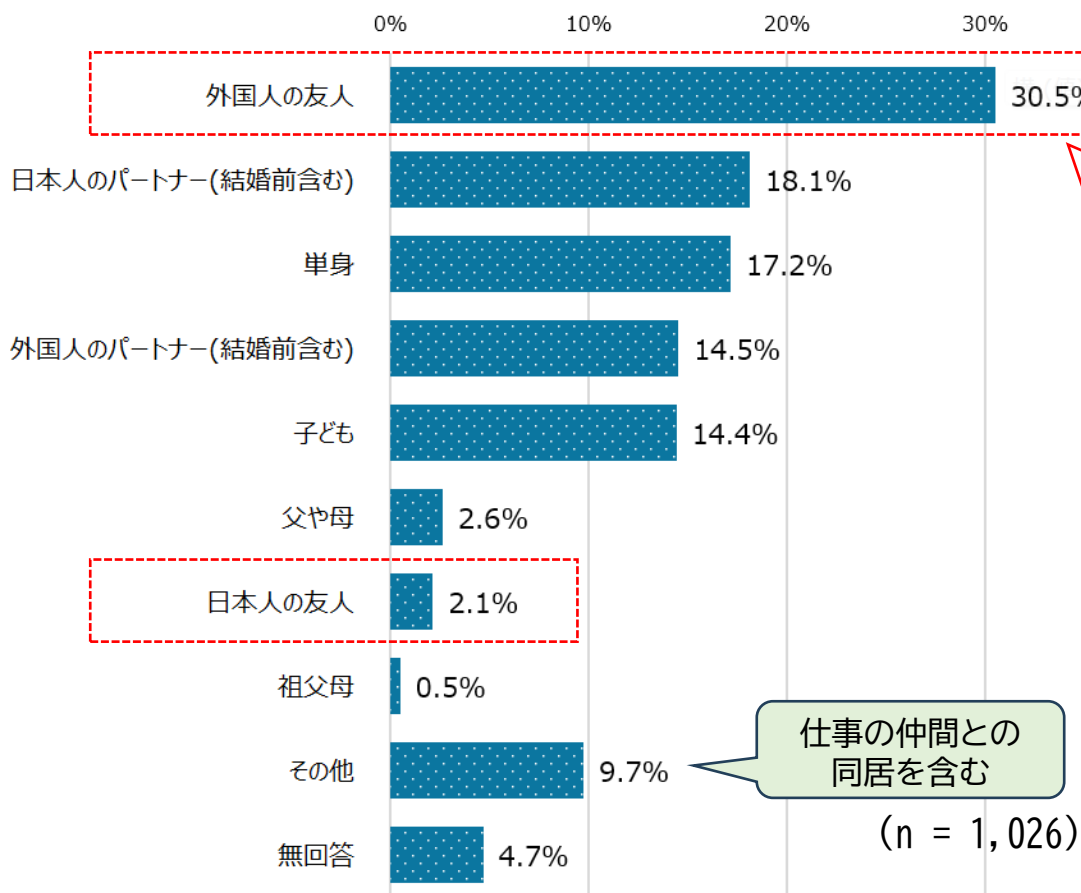


回答者属性⑤(同居している人)

P8

■友人と同居している人が多く、全体の3割強を占める。

■外国人の友人と同居していると回答した人の内訳は、国籍ではインドネシア、ベトナム、ミャンマーの3か国でおよそ8割を占め、在留資格では『技能実習』で5割強を占める。



<国籍別(上位5カ国)> (n = 313)

	人数(人)	割合(%)
インドネシア	106	33.9
ベトナム	92	29.4
ミャンマー	52	16.6
フィリピン	26	8.3
ネパール	9	2.9
5か国計	285	91.1

<在留資格(上位5つ)>

	人数(人)	割合(%)
技能実習	180	57.5
留学	48	15.3
技能	37	11.8
特定技能	14	4.5
特定活動	14	4.5
5か国計	293	93.6

3. 調查結果



大分県に住み続けたいか

P10

- 『大分県に住み続けたい』と回答した人は全体の66.6%
- 『日本の大分県ではないところに住みたい』と回答した人は19.3%で、年齢では「20代」、在留資格では、「留学」「技能実習」が高い傾向にある。

<性別>

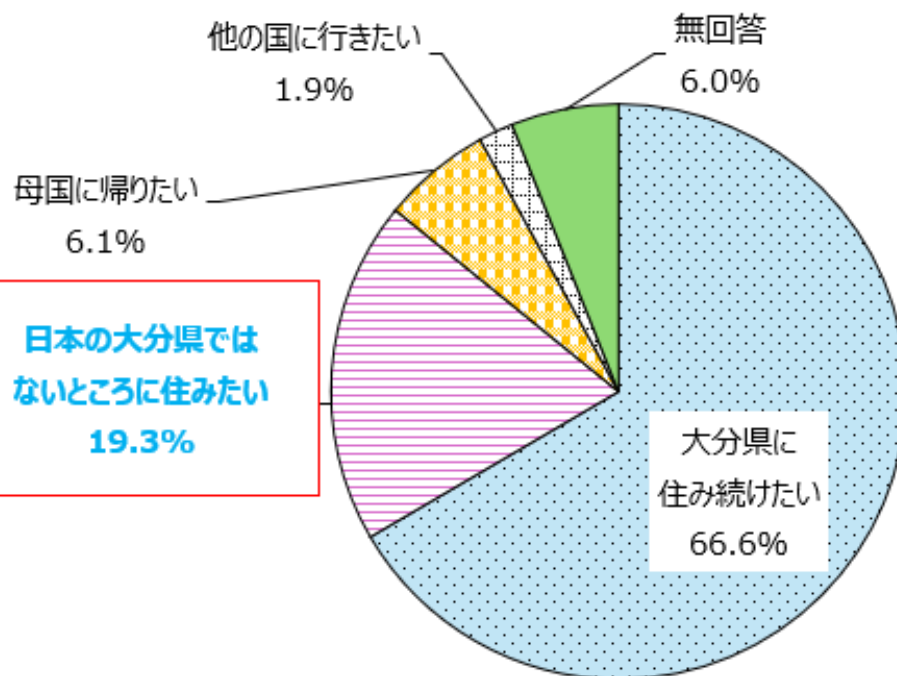
	全体	大分県	大分県以外	母国
男	457 100.0%	306 67.0%	89 19.5%	29 6.3%
女	563 100.0%	373 66.3%	107 19.0%	34 6.0%

<年齢>

	全体	大分県	大分県以外	母国
20代	401 100.0%	180 44.9%	147 36.7%	34 8.5%
30代	304 100.0%	229 75.3%	38 12.5%	19 6.3%
上記以外	146 100.0%	133 91.1%	5 3.4%	2 1.4%

<在留資格>

	全体	大分県	大分県以外	母国
留学	133 100.0%	33 24.8%	57 42.9%	22 16.5%
技術・人文知識・国際業務	76 100.0%	55 72.4%	18 23.7%	1 1.3%
技能実習	269 100.0%	141 52.4%	80 29.7%	26 9.7%
特定技能	34 100.0%	27 79.4%	2 5.9%	- 0.0%



(n = 1,026)

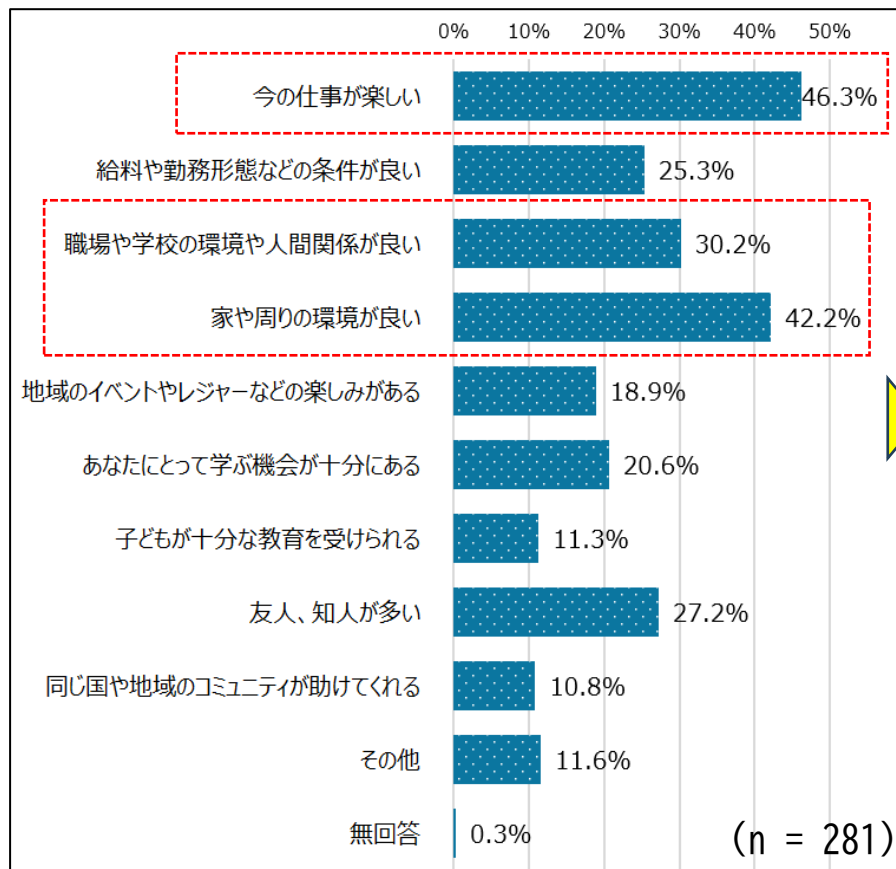


大分県に住み続けたい理由

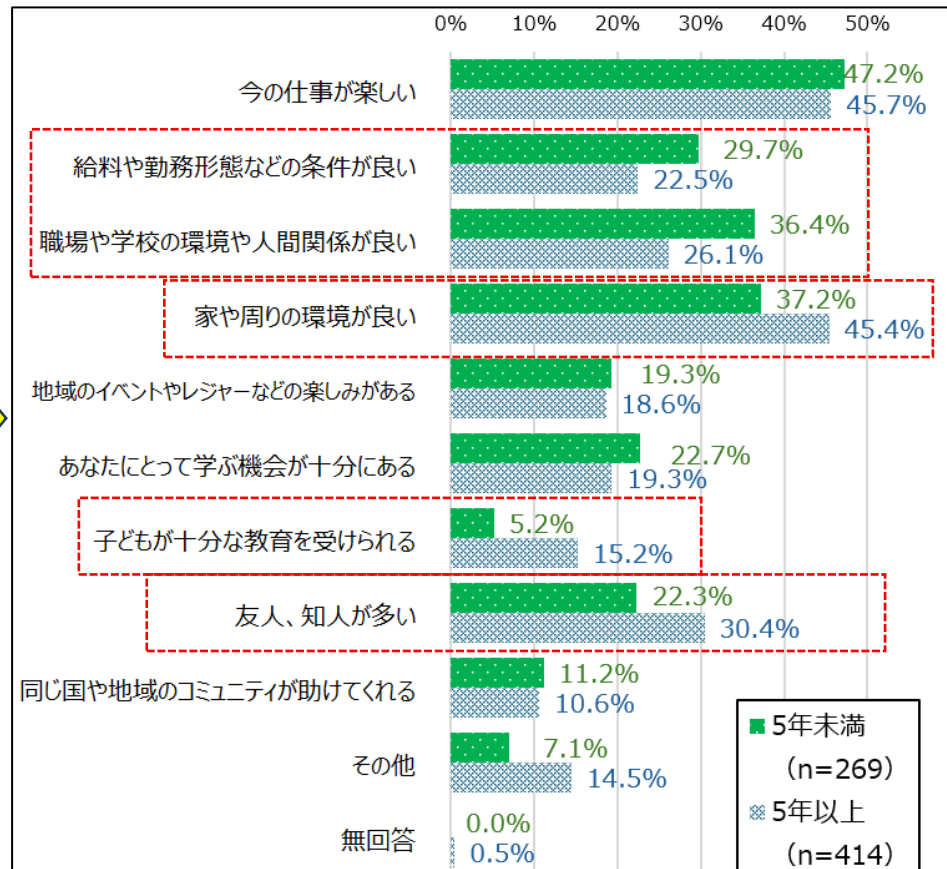
P11

- 大分県に住み続けたい理由として最も多かったのは「今の仕事楽しい(46.3%)」で、次いで「家や周りの環境が良い(42.2%)」「職場や学校の環境や人間関係が良い(30.2%)」である
- 居住歴が5年未満の人は「給料や勤務形態などの条件が良い」や「職場や学校の環境や人間関係が良い」といった理由が相対的に多く、仕事面における充実を理由として高く評価する傾向がある。
- 居住歴が5年以上の人は、「家や周りの環境が良い」「子どもが十分な教育を受けられる」「友人、知人が多い」といった理由が相対的に高く、生活面の充実を理由として高く評価する傾向がある。

<全体的場合>



<大分の居住年数別の場合>





大分県に住み続けたくない理由

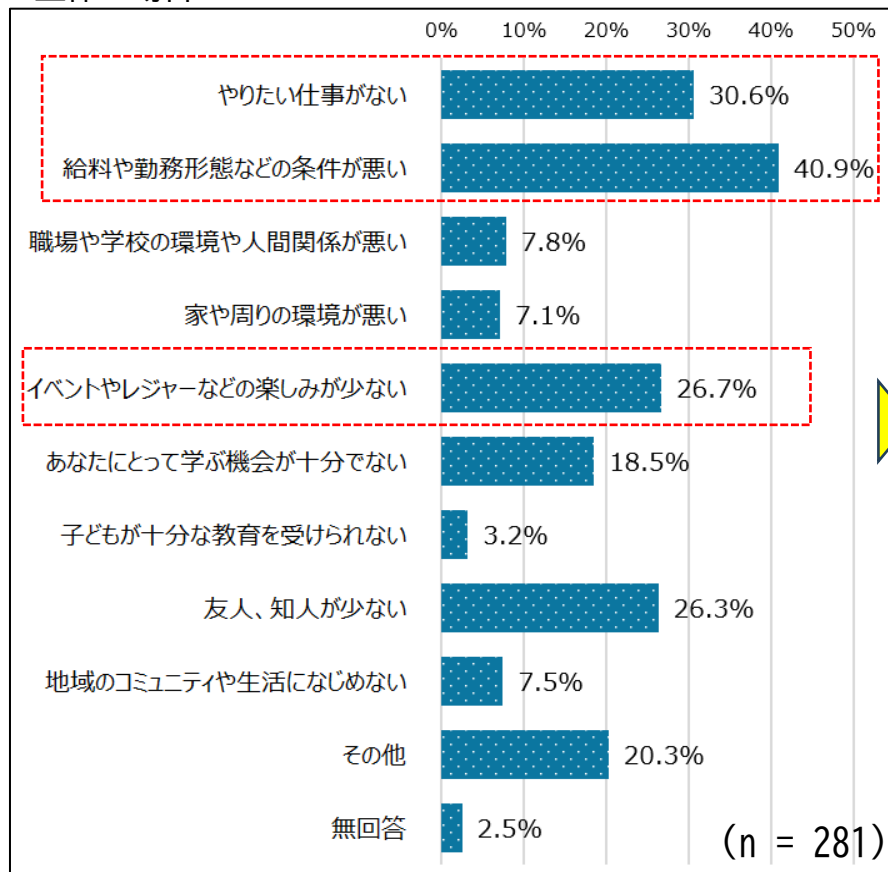
P12

■大分県に住み続けたくない理由として最も多かったのは「給料や勤務形態などの条件が悪い(40.9%)」で、次いで「やりたい仕事がない(30.6%)」「イベントやレジャーなどの楽しみが少ない(26.7%)」である。

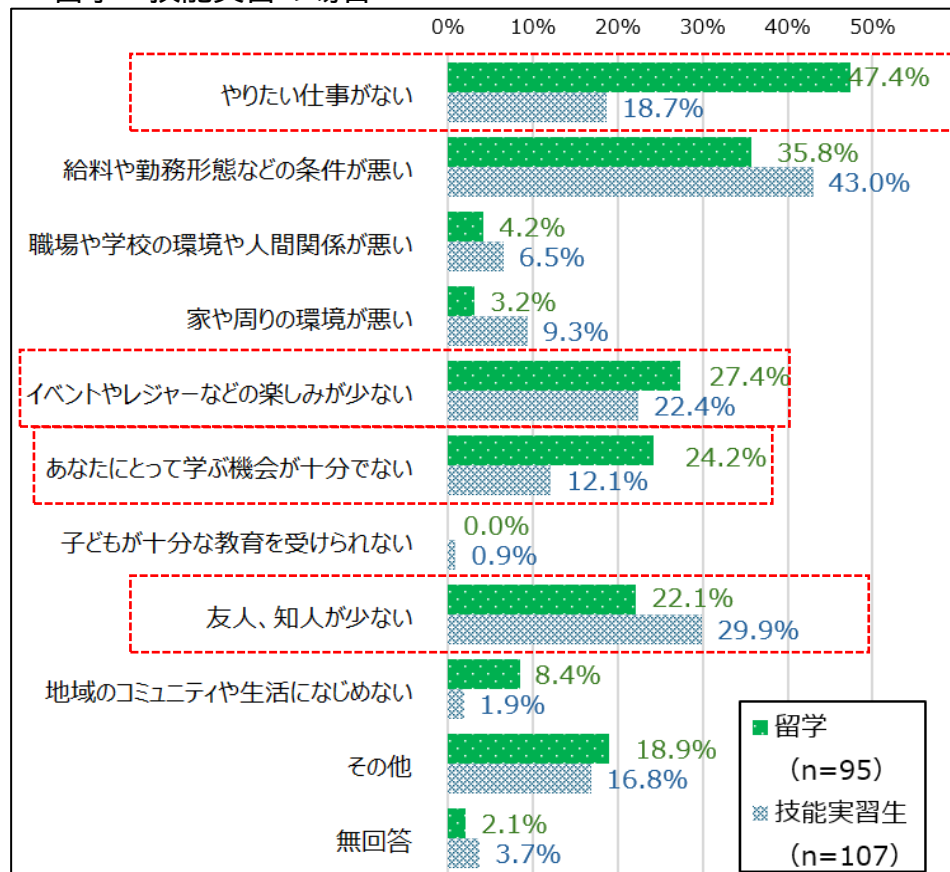
■留学が選んだ理由として最も多かったのは「やりたい仕事がない(47.4%)」であり、他にも「あなたにとって学ぶ機会が十分でない(24.2%)」の理由が相対的に高く、キャリア重視の傾向がある。

■技能実習で最も多かったのは「給料や勤務形態などの条件が悪い(43.0%)」だが、「友人、知人が少ない(29.9%)」「イベントやレジャーなどの楽しみが少ない(22.4%)」と続き、生活の充実を重視する傾向がある。

<全体的場合>



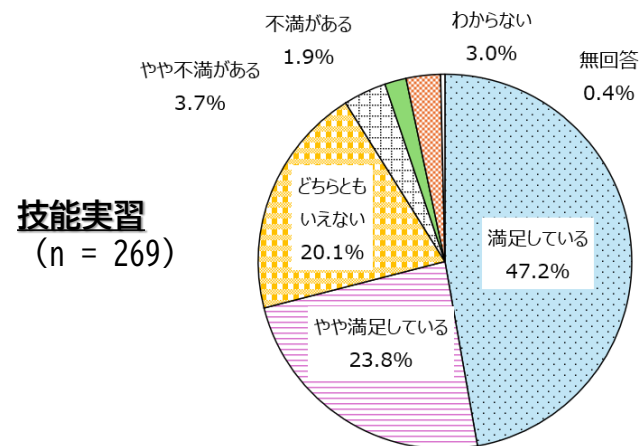
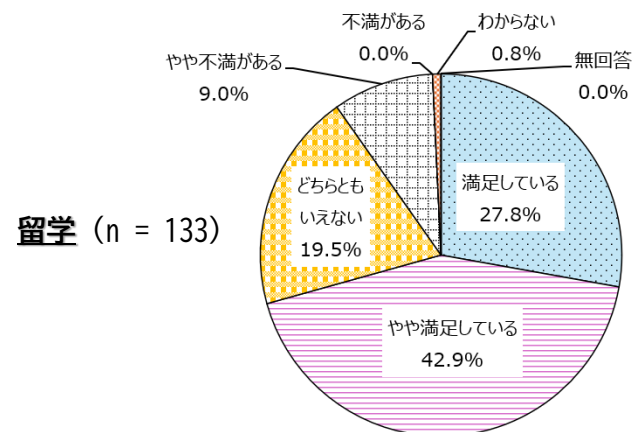
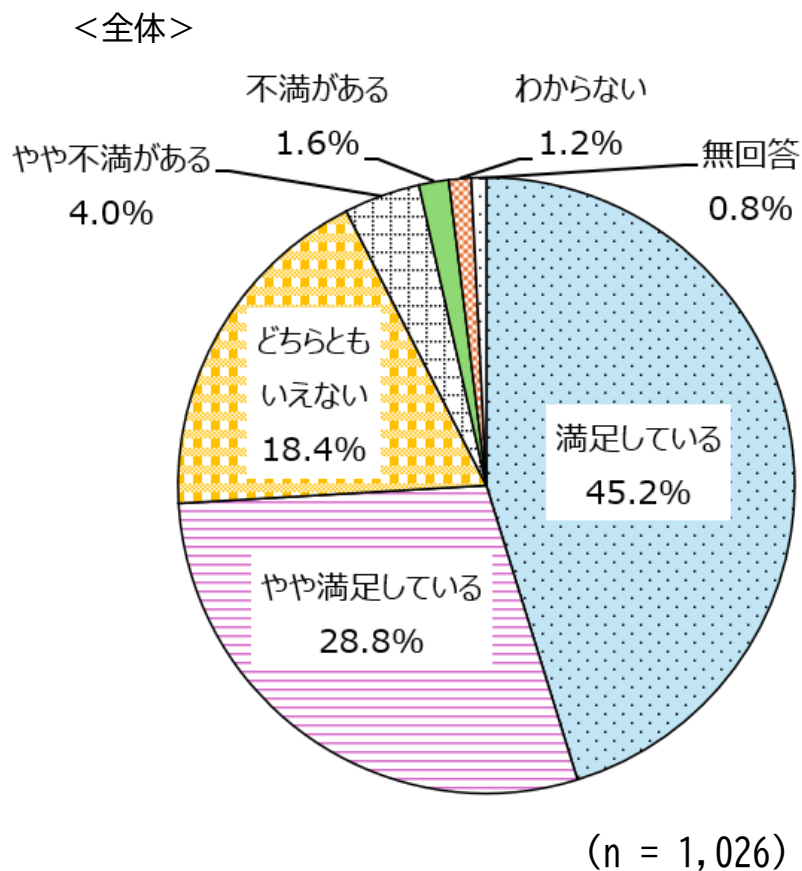
<留学・技能実習の場合>





■大分県での生活に「満足している」「やや満足している」人が7割強。

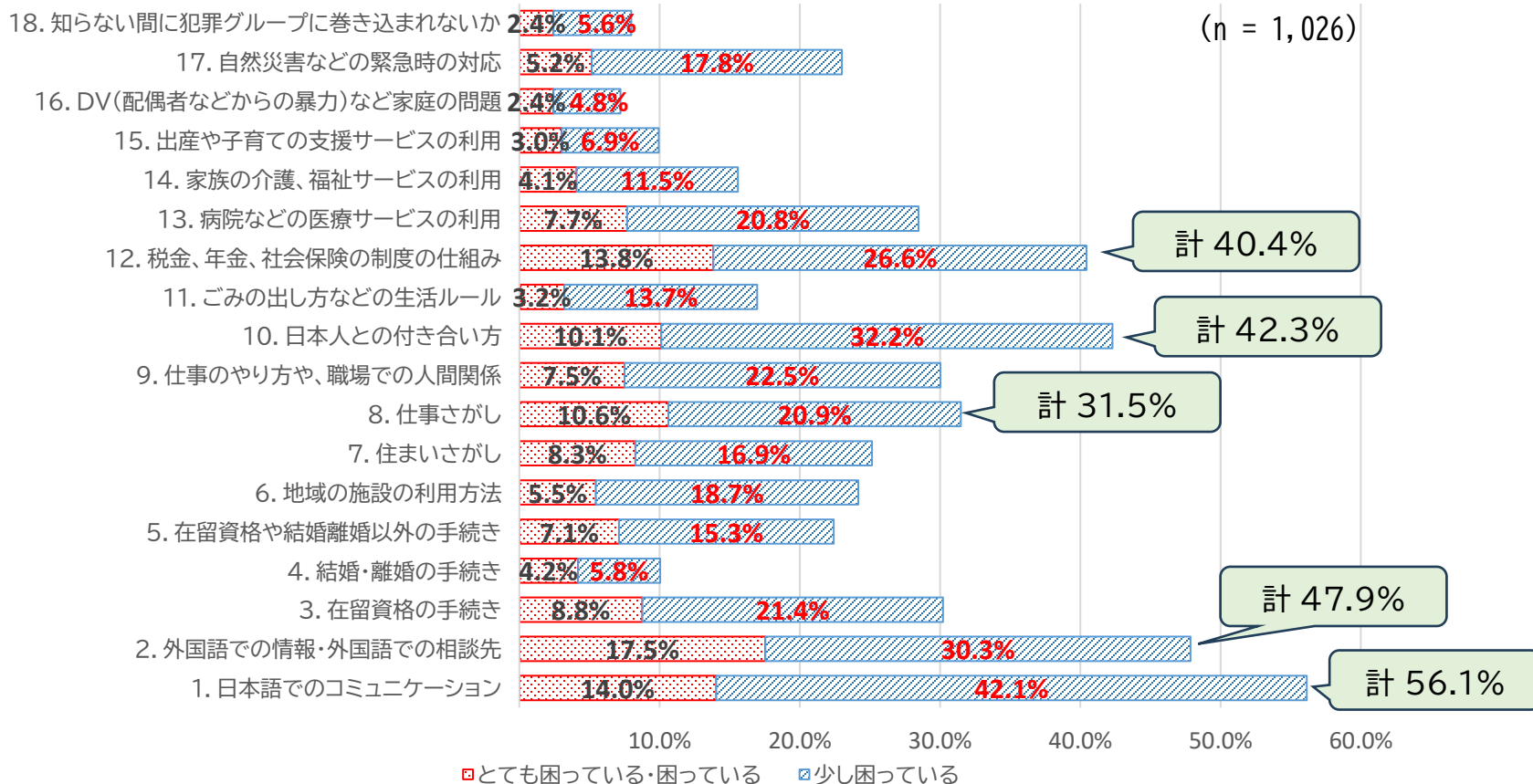
■在留資格のうち『留学』『技能実習』では、「満足している」「やや満足している」人はおよそ7割と全体の傾向と同じだが、「満足している」に限ると、『留学』は27.8%と全体より低い水準となっている。





■生活の困りごとで多かった上位5項目は次のとおり。

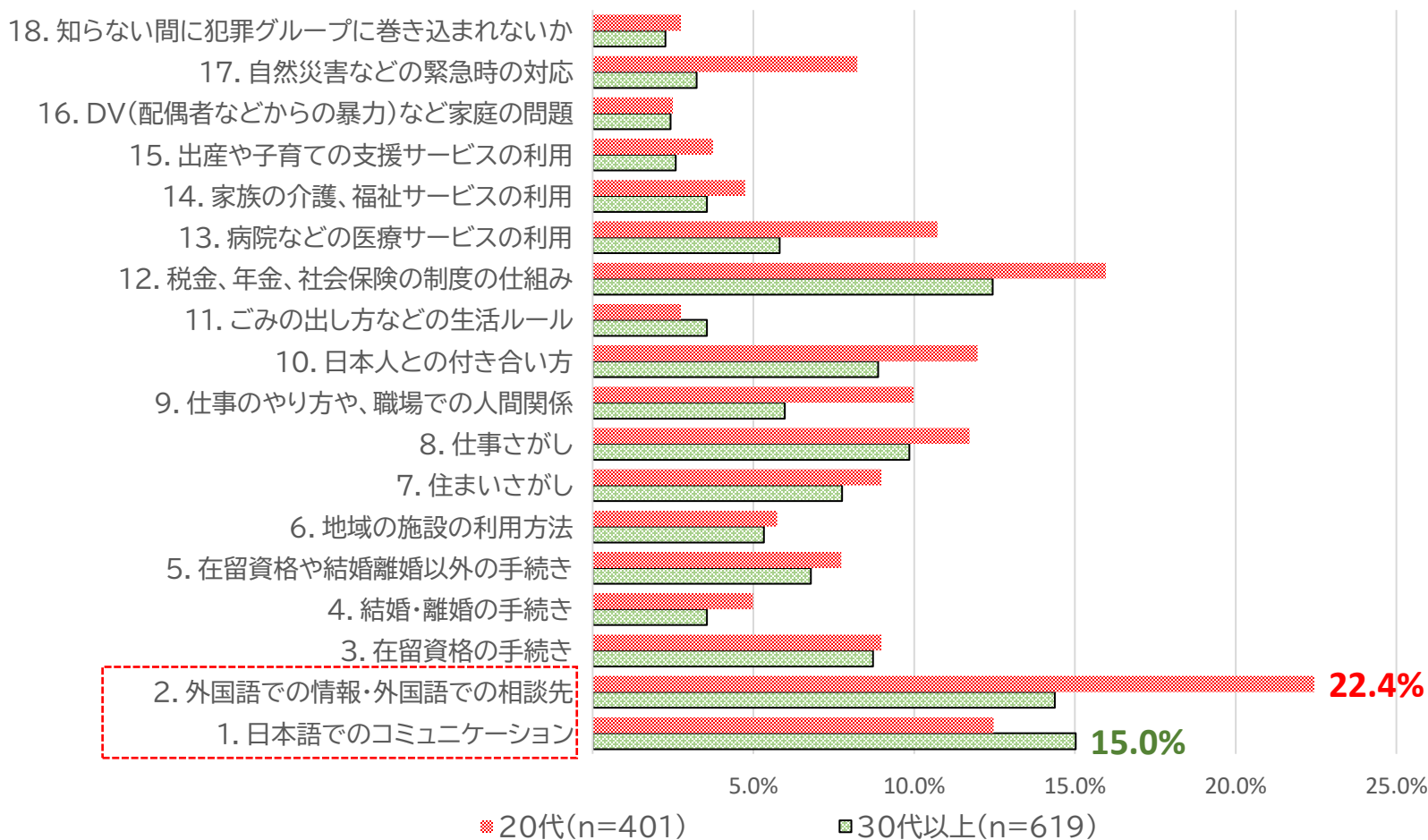
- ①『日本語でのコミュニケーション』 56.1%
- ②『外国語での情報・外国語での相談先』 47.9%
- ③『日本人との付き合い方』 42.3%
- ④『税金、年金、社会保険の制度の仕組み』 40.4%
- ⑤『仕事さがし』 31.5%





■「困っている」「とても困っている」と選択した人を20代と30代以上で分けてみると、最も多い困りごとは、20代では「外国語での情報・外国語での相談先(22.4%)」であり、30代以上では「日本語でのコミュニケーション(15.0%)」となる。

<年代別比較（「困っている」「とても困っている」を選択した項目の割合>

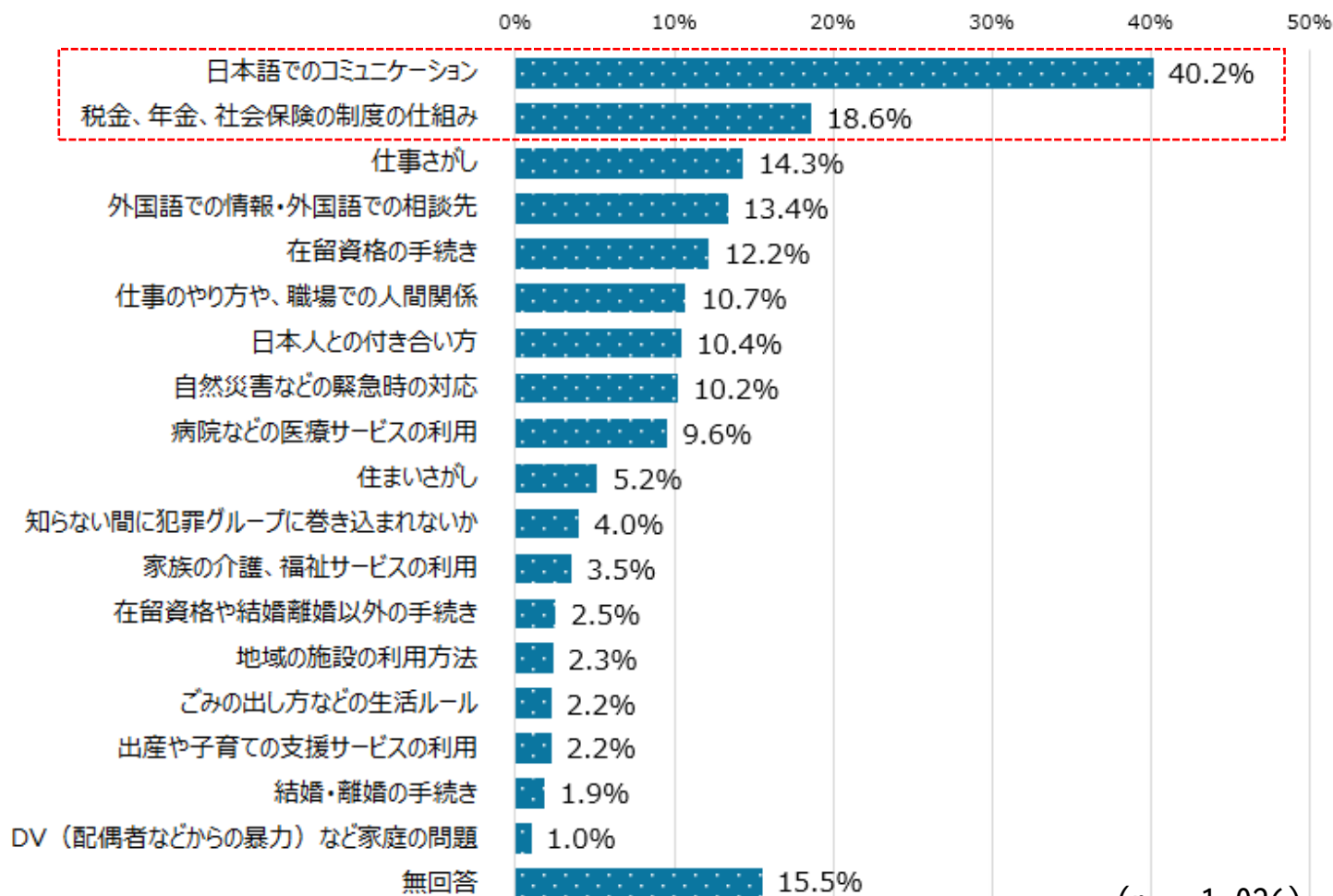




生活上の困りごと(重要だと思う項目)

P16

■困り事のうち外国人の方が重要だと考えている（2項目選択）ものとして、最も回答が多かったのは『日本語でのコミュニケーション』で40.2%、次に多かったのは、『税金、年金、社会保険の制度の仕組み』となっている。



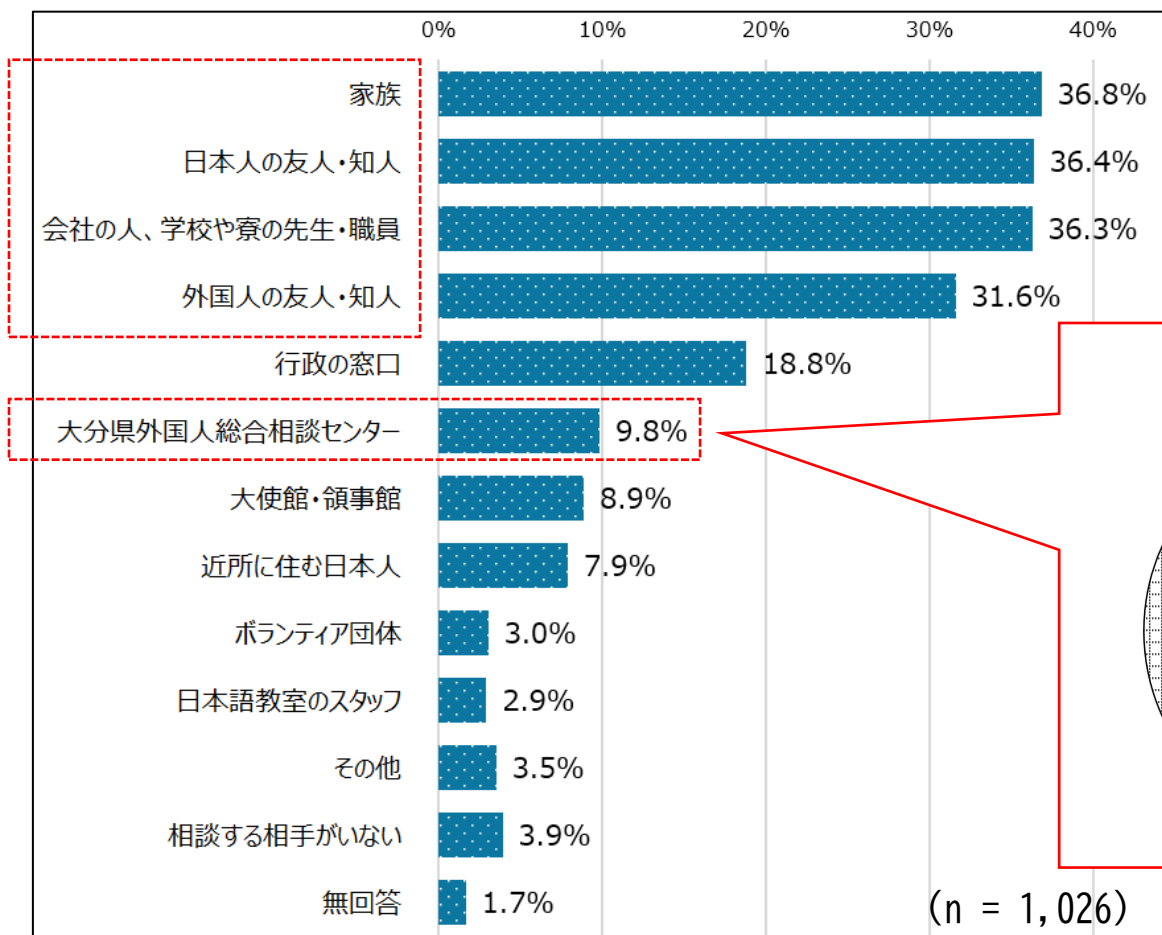
(n = 1,026)



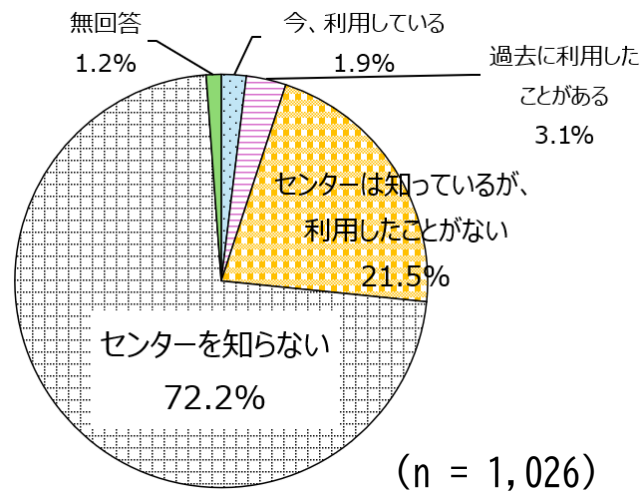
困ったときの相談先

P17

- 家族や職場、友人・知人等の身近な人に相談する人が多い。
- 「大分県外国人総合相談センター」と回答した人は9.8%。
- 回答者(全体)の72.2%は「センターを知らない」と回答。



Q. 大分県外国人総合相談センター
(おおいた国際交流プラザ) を
知っていますか？



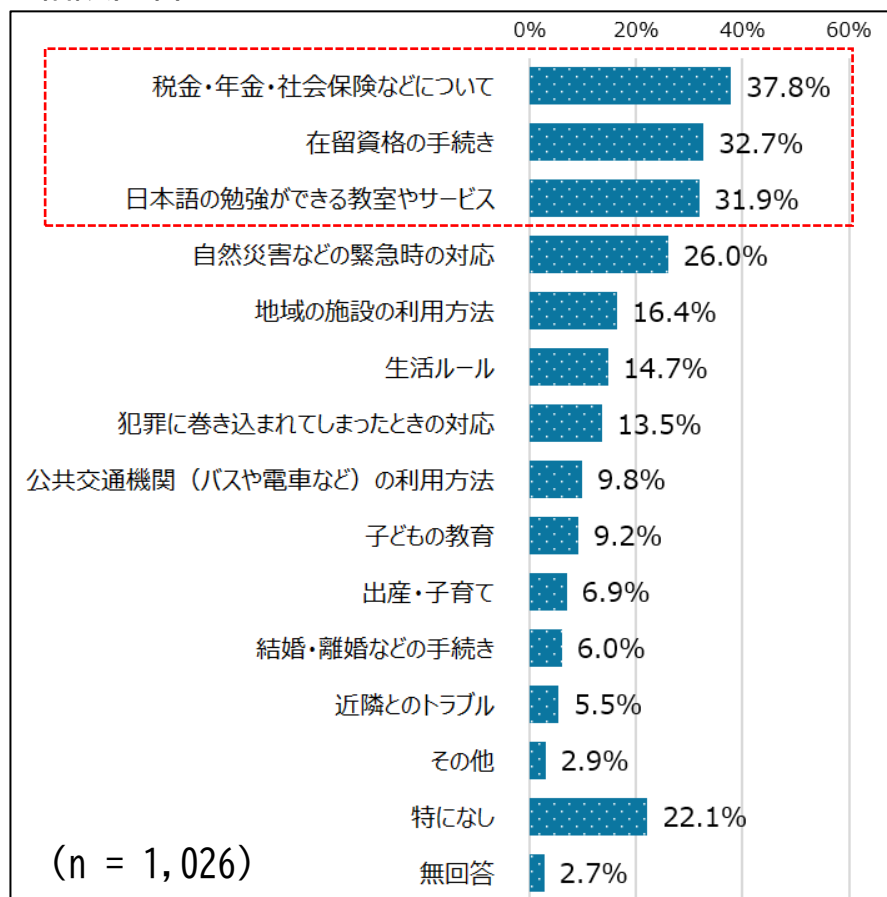


相談窓口に対する希望

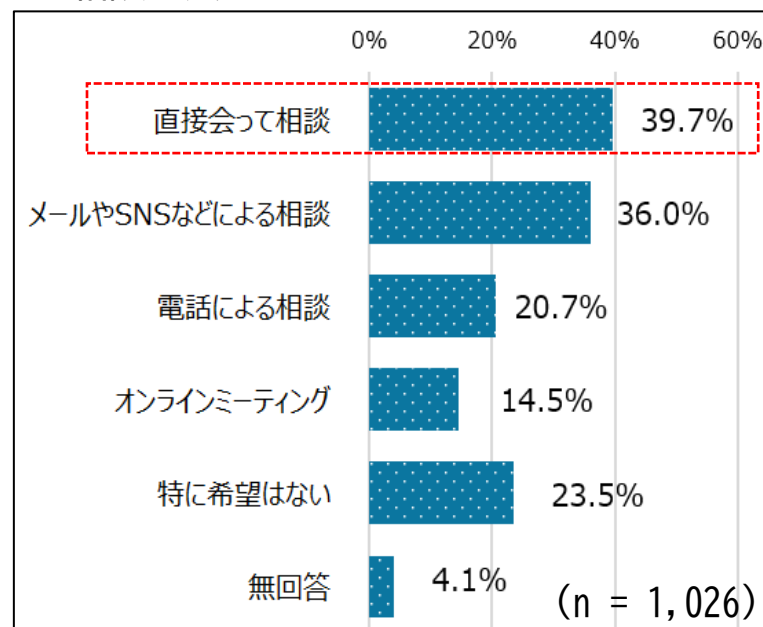
P18

- 相談したい内容としては、「税金・年金・社会保険などについて(37.8%)」が最も多く、「在留資格の手続き(32.7%)」「日本語の勉強ができる教室やサービス(31.9%)」と続く。
- 希望する相談方法は「直接会って相談(39.7%)」が最も多い。

<相談内容>



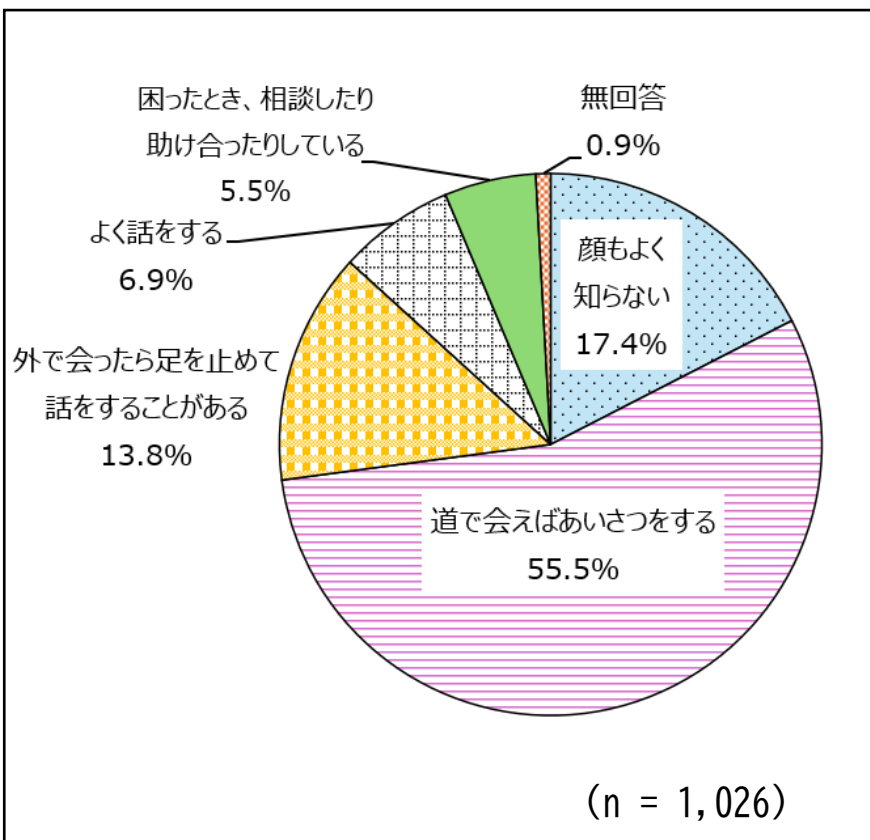
<相談方法>



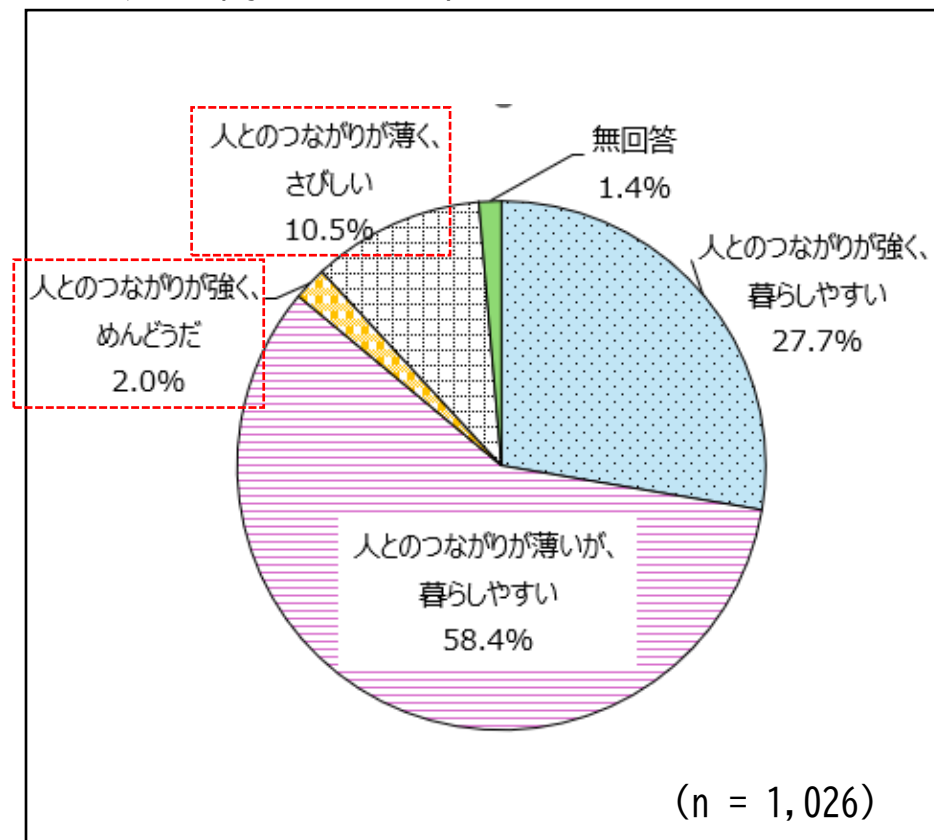


- 地域住民との関わり方について、「顔もよく知らない(17.4%)」と回答したのは2割弱と、大多数は地域住民との何かしらの交流を持っている
- 地域との関わり方については、「人とのつながりが強く、面倒だ(2.0%)」「人とのつながりが薄く、さびしい(10.5%)」と一定数、不満を持っている人がいるが、大体の人は、暮らしやすいと感じている。

<地域住民との交流>



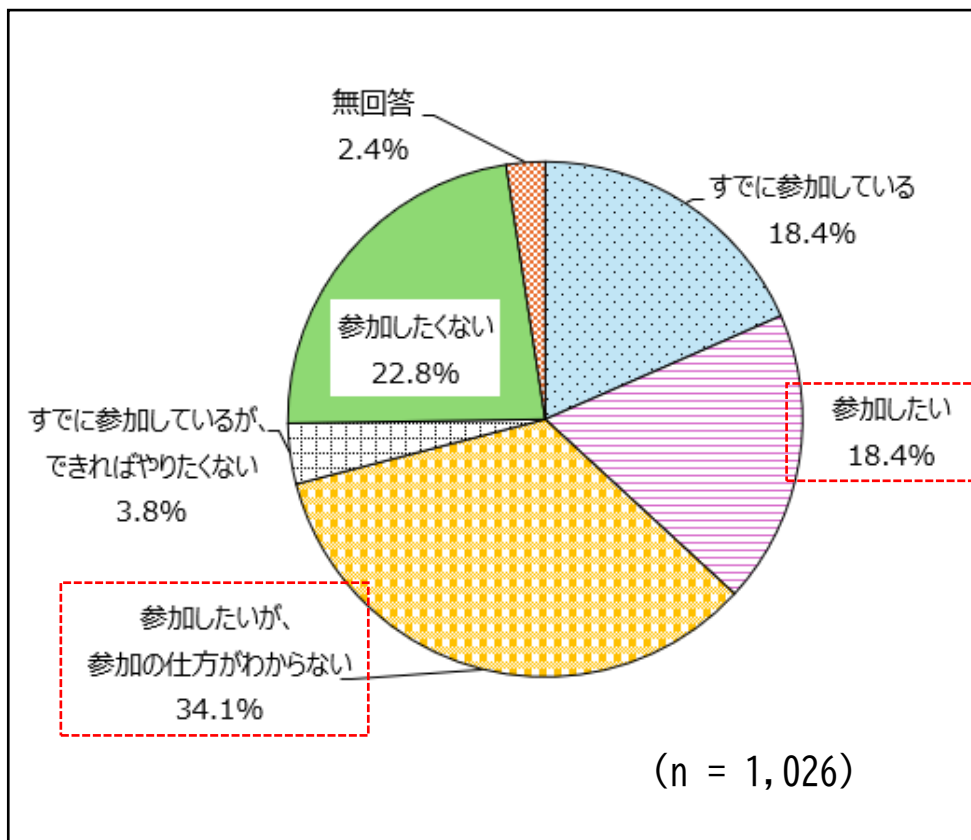
<地域との関わり方の意向>



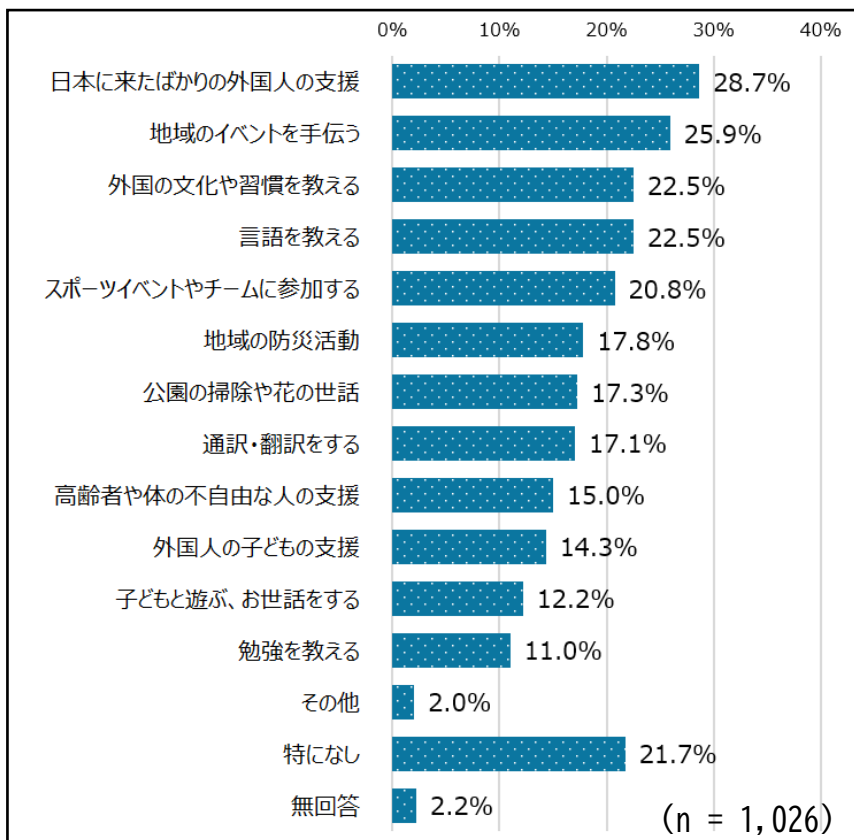


- およそ2割の外国人が、地域活動に「すでに参加している(18.4%)」と回答し、「参加したい(18.4%)」「参加したいが参加の仕方がわからない(34.1%)」と、今後、地域活動に参加したいと考えている人は5割を超えている。
- 参加したい地域活動は、「日本にきたばかりの外国人の支援(28.7%)」が最も高いが、回答は分散している。

<地域活動への参加希望>



<参加したい地域活動>



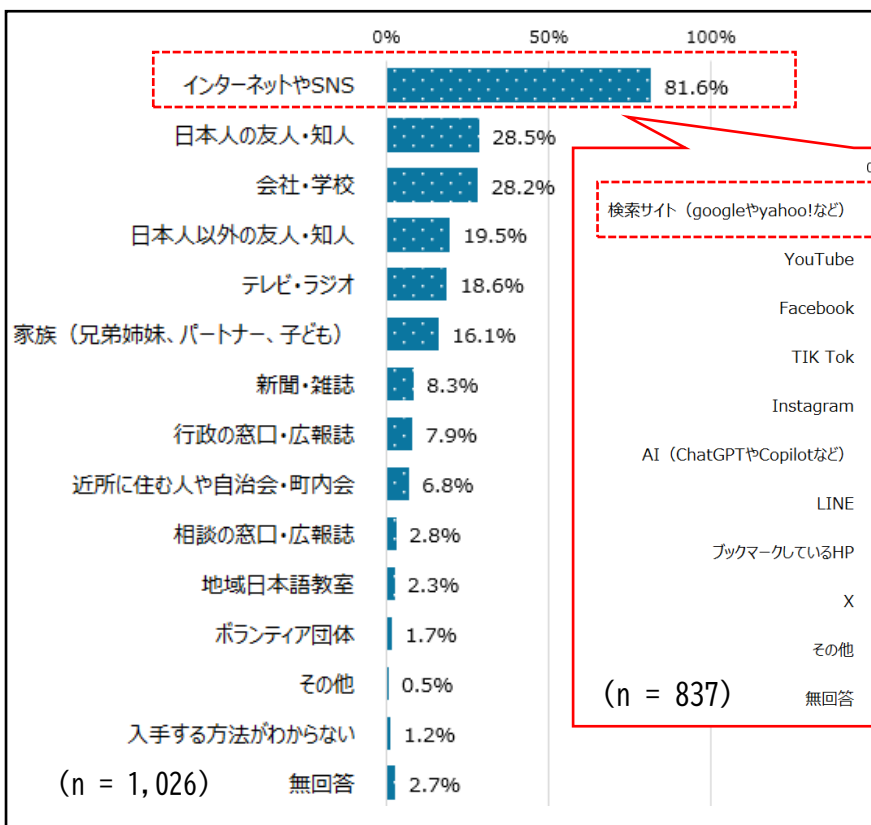


情報収集の方法

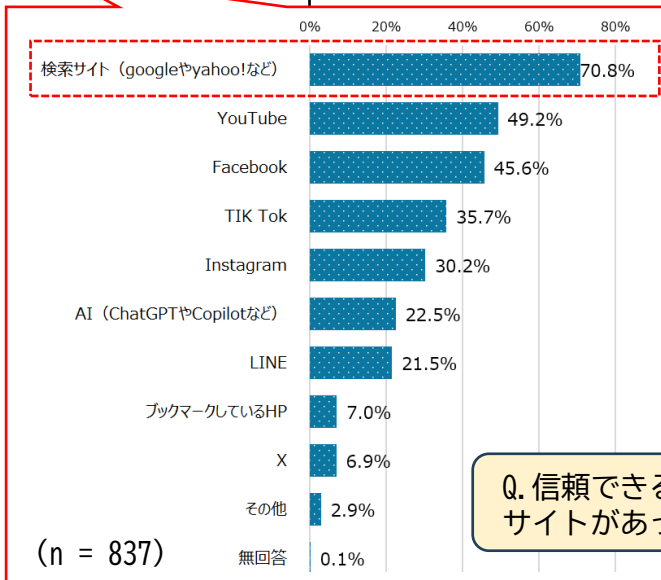
P21

- 生活に必要な情報については「インターネットやSNS(81.6%)」が最も多く、その内訳は、「検索サイト(70.8%)」が最も多い。
- 公的機関の情報を入手する上で困ったことは「どこで情報を入手するかわからない(32.7%)」が最も多く、情報が集約されたサイトを使いたいと答えた人は64.7%である。
- 公的機関の情報を入手する上では、言語の問題で困っている人も多い。

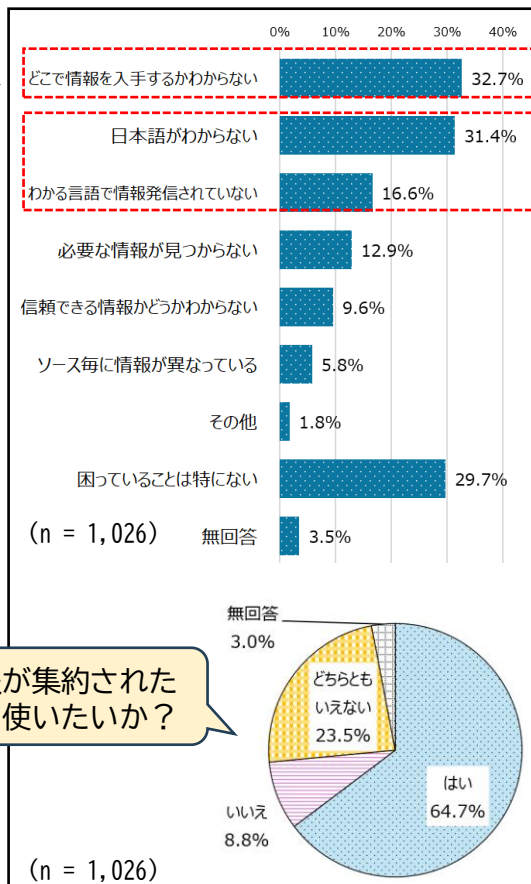
<生活に必要な情報の入手方法>



Q. 公的機関の
情報を探す上で
困ったことは？



Q. 信頼できる情報が集約された
サイトがあったら使いたい？



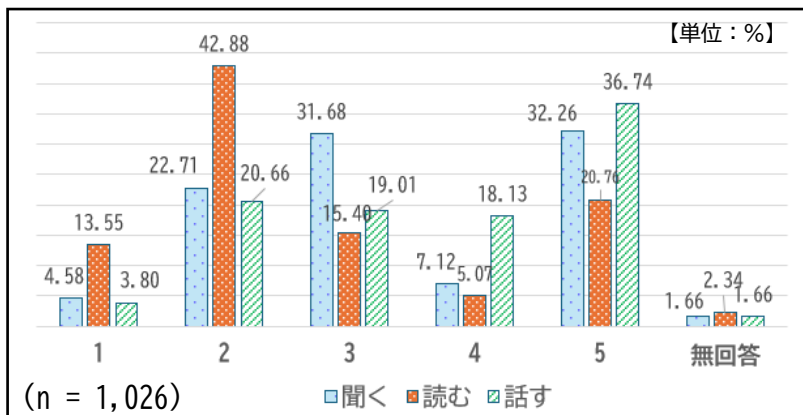


日本語のレベル

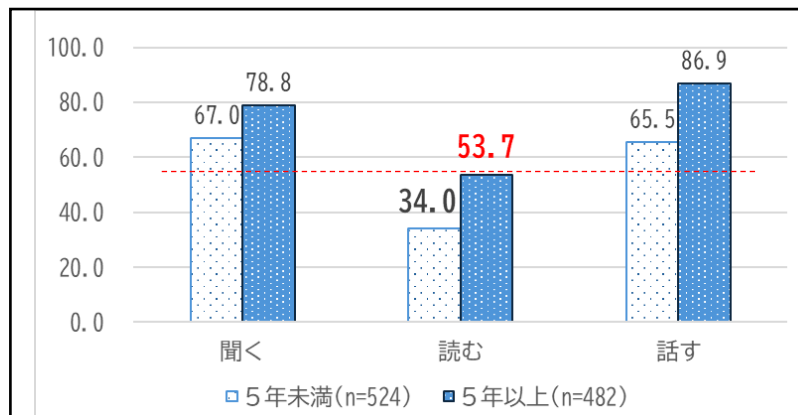
P22

- 日本語レベルは、『聞く』『話す』では7割を超える人がレベル3（以下表参照）以上であるが、『読む』はレベル3以上が4割程度にとどまっている。
- レベル3以上の割合を、日本での在住歴が5年未満と5年以上に分けてみると、在住歴が5年以上の人でも『読む』についてはレベル3以上が53.7%であり、在住歴が5年未満の人の『聞く』『話す』よりも低い水準となっている。

<日本語レベル(全体)>



<レベル3以上の割合>



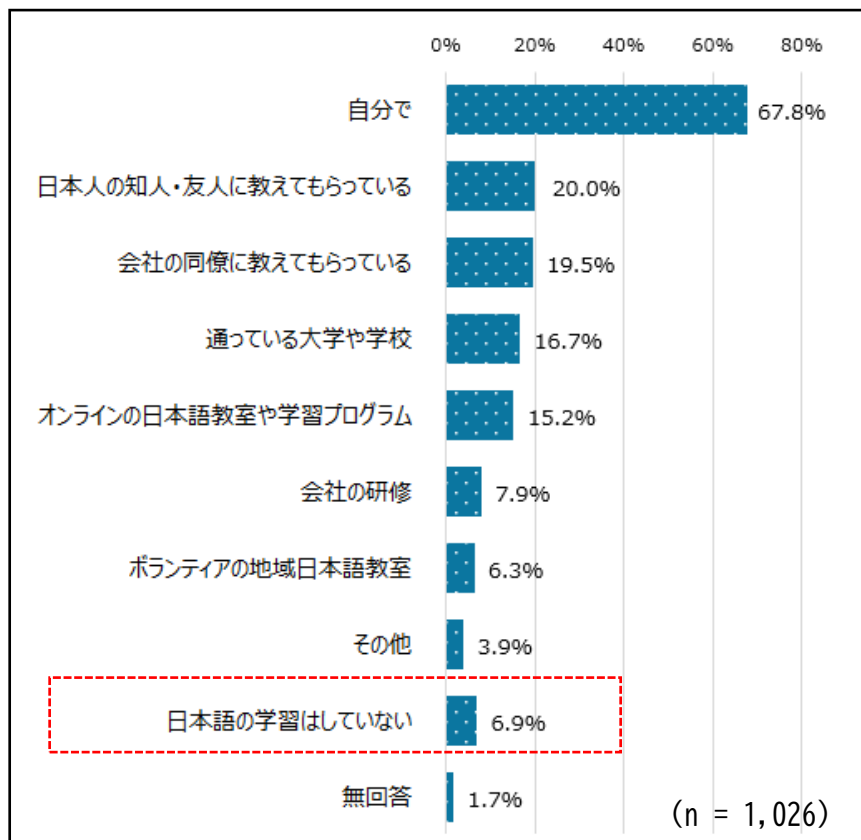
レベル	聞く	読む	話す
1	ほとんど聞き取ることができない。	ひらがな、カタカナの言葉をいくつか読むことはできるが、ほとんど読むことができない。	ほとんど話すことができない
2	<u>簡単な指示</u> を聞いて、何をすべきかを理解できる。	<u>ひらがなやカタカナ、簡単な漢字</u> で書かれた文を読むことができる。	<u>自己紹介</u> をしたり、簡単な質問に答えることができる。
3	<u>ゆっくり</u> と話される会話であれば、 <u>だいたいの内容</u> が理解できる。	<u>メールやチラシ</u> など短い文章を読むことができる。	<u>驚き、嬉しさなどのあなたの気持ち</u> と、その理由を <u>簡単なことばで説明</u> することができる。
4	<u>アニメや映画</u> を見て、 <u>だいたいの内容</u> が理解できる。	<u>新聞や雑誌</u> などを読んで、 <u>だいたいの内容</u> を理解することができる。	<u>店で買いたいものについて質問したり、説明</u> したりできる。
5	日常生活では困らないくらい聞き取ることができる。	日常生活の中では困らないくらい読むことができる。	日常生活の中では困らないくらい話すことができる。

※文科省の「生活Can-do」日本語参照枠を基に設定

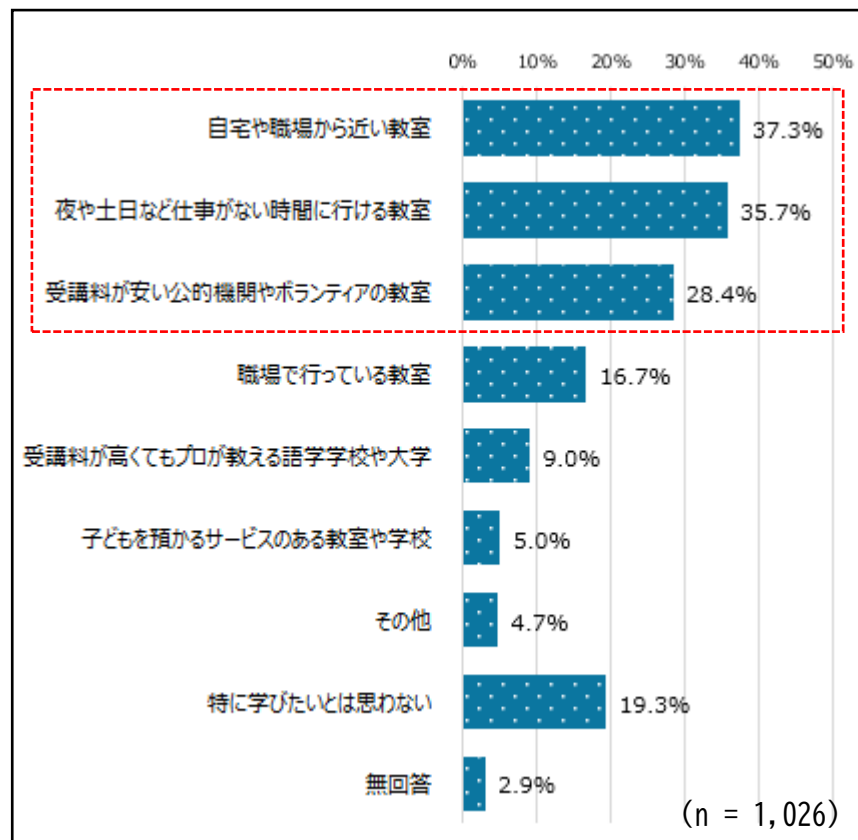


- 日本語の学習状況については、「日本語の学習をしていない(6.9%)」と、ほとんどの人が何かしらの方法で日本語の学習を行っており、7割弱の人は自主学習を行っている。
- 日本語教室への希望は、「自宅や職場から近い教室(37.3%)」が最も多く、「夜や土日など仕事がない時間に行ける教室(35.7%)」「受講料が安い公的機関やボランティアの教室(28.4%)」と続いている。

<日本語の学習方法>



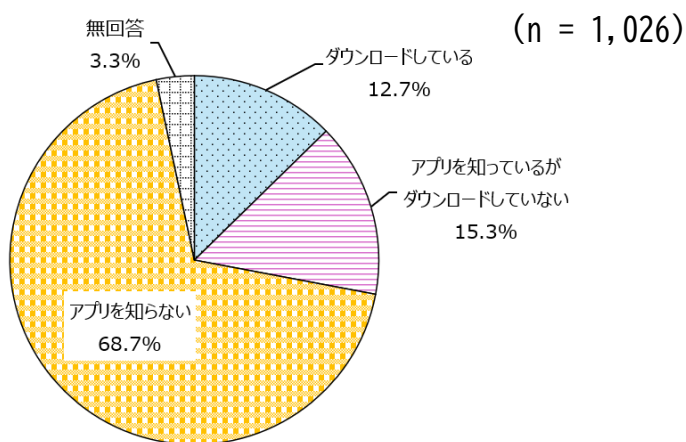
<日本語教室への希望>





- おおいた防災アプリについては、アプリを知らない人が68.4%であり、20～30代で知らない人の割合が高くなっている。40代以上では、知っているがアプリをダウンロードしていない人の割合が高く、ダウンロードしている人の割合は20～30代よりも低くなっている。
- 災害の備えをしっかりと行っている人もいるが、避難所を外国人が利用してよいと知らなかった人が4割弱いる。

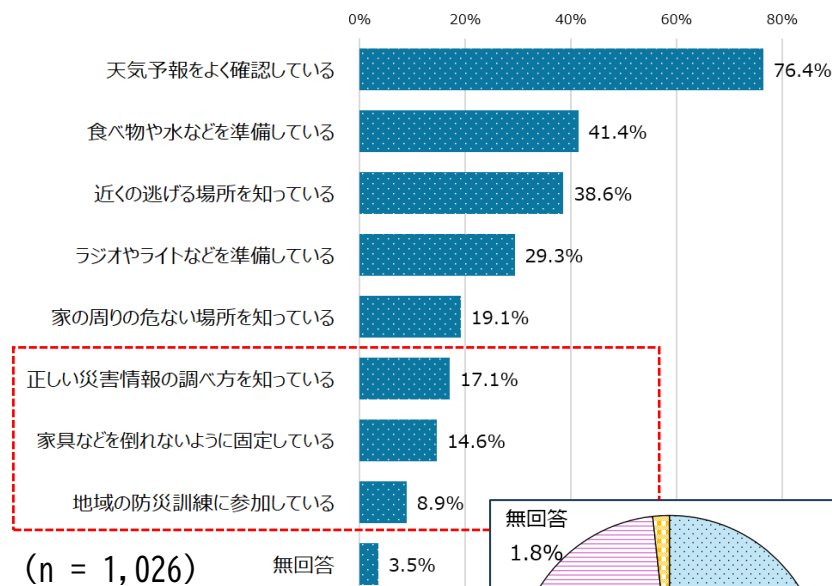
<おおいた防災アプリ>



(n = 1,020)

年代	人数 (人)	割合 (%)			
		ダウンロードしている	アプリを知っているがダウンロードしていない	アプリを知らない	無回答
20歳～29歳	401	12.5	11.5	74.8	1.2
30歳～39歳	304	14.8	11.5	72.4	1.3
40歳以上	315	11.1	23.8	57.8	7.3

<備えとしてやっていること>



Q. 避難所は外国人も利用できる
ということを知っていたか？

